

脳MRI・MRA検査をお勧めします！

現在、わが国では脳出血や脳梗塞などの脳血管障害により死亡する人は、がんについて第2位となっています。また高齢化に伴い脳梗塞や老年痴呆などの脳に関係する病気は、さらに増加することが予想されます。これら脳血管障害はいったん発症すると、死亡することも多く、死に至らなくとも四肢の麻痺や言語障害などの後遺症に苦しめられます。これらの病気を事前に発見し予防するために、当ドッククリニックでは磁気共鳴装置（MRI）を導入し、脳病変の早期発見に努めています。

ご予約はお電話・FAX・インターネットで！

その1 脳MRI・MRAとは？

MRI（磁気共鳴画像）

MRIとは強い磁石と電波（ラジオ波）を使用し、体内の細胞を構成している水素原子の分布を画像にしています。したがってX線CTに比べ鮮明な画像が得られ、X線に被曝する危険もありません。本検査においては、全脳を6mmのスライス厚で輪切りにした画像を3種類のコントラストで撮像し、脳の状態を評価します。

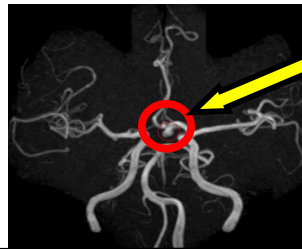
MRA（磁気共鳴血管撮影）

MRIを行うのと同じ装置でMRIと同時に脳内血管の血流を映し出すことができます。通常、血管を描出するには造影剤という薬剤を血管に注射しますが、このMRA検査は造影剤を使用せずに、お客様には負担無く検査を受けて頂けます。

その2 こんなことがわかります！

未破裂脳動脈瘤・脳動脈狭窄症

くも膜下出血のほとんどが脳動脈瘤の破裂により発症します。突然の激しい頭痛に襲われ意識を失い死亡することのある恐ろしい病気です。脳動脈瘤が破裂し発症すると40%は死亡するといわれています。自覚症状がほとんど無いので、病気のもとになる動脈瘤の発見には、MRAの検査が必要です。



未破裂脳動脈瘤 MRA検査

こぶ様になった血管。これが動脈瘤です。破れると激しい頭痛と意識が消失し、死に至ることがあります。

脳梗塞病変 MRI検査

この白くなっている所が脳梗塞です。血管が閉塞し、脳の細胞が破壊され最悪は死亡することもあります。

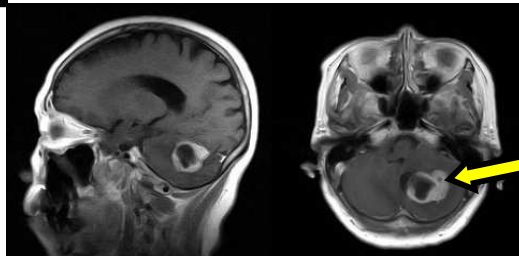


無症候性脳梗塞・閉塞性脳血管障害

脳に酸素と栄養（血液）を供給している動脈が詰まり、血液が途絶えた領域の脳細胞が壊死し、脳の働きが失われる病気を脳梗塞といいます。主な症状として麻痺や痴呆などの後遺症が残り、最悪の場合死に至ることもあります。脳梗塞の中でも症状が無いまま、ひそかに発生している状態を無症候性脳梗塞といい、自覚症状がなくとも近い将来に脳梗塞をおこす可能性が大きいので早期に診断し、予防することが大切です。

脳腫瘍

腫瘍が小さいうちは自覚症状がありません。ある程度大きくなってくると、たとえ良性でも脳の神経を圧迫し、いろいろな症状が現れます。悪性であると全身に転移しますので、早期発見、早期治療をおすすめします。



悪性脳腫瘍 MRI検査

これくらい大きくなると、どこかに転移している可能性があります。

その3 受ける時の注意

心臓にペースメーカーや人工弁を入れている方は検査を受けることができません。また、体内に金属を入れている方（脳動脈瘤のクリップ、骨折時のボルト、人工関節等）は要注意です。係りの者に申告してください。

その4 こんな方におすすめ！

- ★両親、兄弟姉妹にくも膜下出血の方がいた
- ★本人、両親、兄弟姉妹に心筋梗塞か狭心症の病歴がある方
- ★糖尿病、高血圧の病歴が長い方、中性脂肪、コレステロール、尿酸の血中値が高い方
- ★頭痛、めまい等の自覚症状がある方